

所属会派・所属委員会等のご報告

所属会派は「自民党市民会議」、常任委員会の所属は「文教厚生委員会」

令和元年5月3日より佐世保市議会議員の任期がスタートしました。私は今回の市議会議員選挙を立候補するにあたり、どの政党にも属さず、地域のために是々非々で自由に活動したいとの思いから、保守系の無所属として選挙戦に臨みました。

この度、宮城議員をはじめ、久池井議員、眞木議員が勇退されたことに伴い、会派「市政クラブ」の存続が困難になりました。そこで、所属会派の検討にあたり、私自身が選挙でお約束した政治姿勢や政策を実現していくこと、佐世保市政の発展を最優先に考えた結果、「自民党市民会議」に所属して議会活動を行うことといたしました。

私が自民党市民会議に所属会派の届けを行った時点では、13名の議員で構成される予定がその後緑政クラブ会派も自民党市民会議に合流する運びとなり、21名の会派となりました。

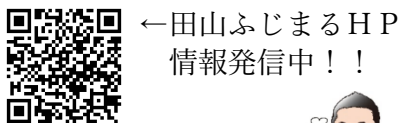
市議会議員の定数33名中21名が所属する大会派となりましたので、市政に関する重要な決定事項の議論過程の不透明化、議会運営の傲慢など、様々な不安や懸念が存在するのも事実です。

いずれに致しましても、常に地域との信頼と絆を大切にしながら、将来世代に未来を引き継ぐ責任感と気概を持って、市民の皆様にとり最も身近な政治家としてお育ていただけるよう、精進を重ねて参ります。さらに、政策立案についても、一般質問には積極的に登壇し、鋭意努力を重ね、開かれた議会運営に取り組む決意でございます。

また、常任委員会については、保健福祉部・子ども未来部・教育委員会を所管する「文教厚生委員会」に所属しました。特別委員会は、石木ダムについて学ぶため「石木ダム建設促進特別委員会」に。都市計画審議会の委員にも就任しました。



保守系3会派が合流、21名の大きな会派になりました。



父親として



後援会の皆さんと



相浦川に鯉のぼりを設置

佐世保市議会議員 田山ふじまるプロフィール

- 1989年7月23日生まれ（29歳）
- 福岡県古賀市出身
- 福岡県立宗像高等学校 卒業
- 長崎県立大学経済学部地域政策学科 卒業
- 衆議院議員・県議会議員の秘書を歴任
- 佐世保市議会議員に初当選（29歳 最年少）
- 文教厚生委員会 委員
- 石木ダム建設促進特別委員会
- 相浦青年会、消防団第26分団所属
- 妻、長男(2歳)と愛宕町在住

ふじまる通信 2019夏

佐世保市議会議員



《田山ふじまる事務所》 佐世保市相浦町220 TEL/FAX 0956-59-8762 080-1795-6159

佐世保市議会議員 田山ふじまる

— ご挨拶 —

皆様には益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。4月21日、多くの皆様のお力添えにより、佐世保市議会議員に初当選させて頂きました。改めまして深く感謝申し上げますとともに、皆様のご期待に応える政治活動に邁進して参る所存です。早速、佐世保市議会6月定例会において一般質問に登壇させて頂き問題提起と提案を行いました。引き続き、地域との絆を大切に、初心を忘れることなく、活力ある佐世保を子どもたちの未来へつなぐため頑張りますので、温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



佐世保市議会議員に初当選 29才、市政史上最年少議員として

市議選ダイジェスト

File01 相浦商店街を桃太郎



File02 18会場で個人演説会



File03 最後のガンバローコール



File04 行動隊長と固い握手



File05 宮城後援会長と必勝だるま



File06 当選証書を頂きました！



●選挙戦を振り返ると、街頭活動や個人演説会、商店街の練り歩きなど、いろいろな場面が思い出されます。最後の演説会は「飯盛神社」。多くの仲間や地域の皆様のお力添えに心より感謝いたします。

令和元年6月補正予算12億3,924万円 森きららの移転検討経費、水産センター機能強化事業費など

俵ヶ浦半島公園(仮称)官民連携検討経費	3,839万円	企画部
九十九島動植物園(森きらら)移転検討経費		
佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港130周年記念事業 させぼシーサイドフェスティバルのMUSIC花火への補助	1,000万円	観光商工部
日本遺産「針尾送信所」での多言語解説システムの導入	330万円	教育委員会
自治体PPS(新電力会社)設立に向けた出資金	2,700万円	企画部
栽培漁業の中核施設、水産センターの改修にかかる基本設計	3,434万円	農林水産部
宮地区公民館・宮支所の長寿命化改修に伴う仮移転経費	120万円	市民生活部
旧氏(旧姓)併記にかかる印鑑登録、コンビニ交付システムの改修	632万円	市民生活部
動物愛護センター(仮称)の整備にかかる実施設計	1,500万円	保健福祉部
ため池改修工事にかかる県営事業負担金(瀬道町)	2,112万円	農林水産部
長崎県と連携し、地場企業の事業拡大や事業承継の支援	1,000万円	観光商工部
クルーズ船社の直接販売を促進する市内観光事業者の支援	300万円	観光商工部
公園施設長寿命化計画に基づく更新工事(花高中央公園)	740万円	都市整備部
港湾施設改良事業にかかる県営事業負担金(早岐港、臼ノ浦港)	219万円	港湾部
港湾施設改良事業にかかる国直轄事業負担金(浦頭地区、前畑地区)	2億2,500万円	港湾部
西消防署江迎・鹿町出張所建設にかかる実施設計	2,250万円	消防局
防災行政無線の整備、アナログ式からデジタル式への更新	5億5,170万円	消防局
黒島教職員住宅の改築にかかる解体工事、仮設住宅賃貸借	1,949万円	教育委員会
学校現場におけるスクールロイヤー制度の新設	30万円	教育委員会
長崎県からの教育活動推進事業(猪調小、大野小、大野中)	41万円	教育委員会
宮地区公民館・宮支所の長寿命化改修工事	1億2,530万円	教育委員会
「森林環境譲与税基金」の新設	180万円	財務部
低所得者・子育て世帯向けプレミアム付商品券の販売	9,278万円	保健福祉部
社会福祉施設整備補助事業費(日中サービス支援型共同生活援助)	126万円	保健福祉部
公的介護施設整備補助事業費(認知症対応型共同生活介護)	322万円	保健福祉部

消防団員として地域防災に取り組む

2019年6月1日、「大切なまちを守りたい」との一心で佐世保市消防団第26分団に入団しました。今日の消防団は消火活動のみならず、様々な災害現場で活動し、地域防災の中核を担っています。私が住む相浦地区には相浦川があり、昨年7月、氾濫危険水位に達しました。まだまだ先輩団員の足元にも及びませんが、消防防災の現場について学び、今後の議会活動につなげます。



高島の皆さんと意見交換



棚方・光町6ヶ町協議会総会

一般質問 (2019年6月24日)

一般質問とは・問題提起と政策立案

一般質問とは、議員個人が市政の現状をチェックし、将来に対する政策提案を行うものです。さらに、議員が会派を代表して行う「代表質問」と議員個人が行う「個人質問」に分けられ、市長などが答弁に立ちます。議員は年4回の定例会(3・6・9・12月)で一般質問を行うことができ、市民も議場での傍聴、またインターネットによる中継や録画を見ることができます。



幼児教育・保育の無償化について

- Q.** 本年10月から始まる幼児教育・保育の無償化により、幼稚園・保育所・認定こども園等への入所ニーズの高まりが予想されるが、現在の「新させぼっ子未来プラン」では入所ニーズの量について全市域トータルでの算出にとどまっている。地域別のニーズの把握に対する本市の見解を伺う。
- A.** 本市では、「新させぼっ子未来プラン」の次期計画の策定作業を進めており、児童数の人口推計、近年の入所実績の把握に加え、市内の未就学児の保護者約3,000名を対象に施設の利用意向に関するアンケートを実施している。現在、集計結果の分析作業を進めており、待機児童の状況では地域による偏在も見られ、地域ごとのニーズの把握に向け具体的な検討を行っている。

保育者不足の対策について

- Q.** 本市においても保育者不足が大きな問題となっているが、潜在保育者の数について把握しているか伺う。また、保育人材を確保し、保育の質を高めるためにも、本市独自の取組みが必要ではないか。
- A.** 潜在保育者の数は県内13,000名、佐世保市内2,300名と推計される。現在、保育士確保緊急対策事業に加え、「させぼお仕事情報プラザ」でも潜在保育者をターゲットに再就職支援を行っている。

自習室の設置について

- Q.** 若年層とくに高校生にも地区公民館の利用拡大を図るために、公民館の講座室を自習室として開放して、勉強したい人が自由に入出でき、快適な環境で自習に集中できる空間を提供してはどうか。
- A.** ご提案の自習室は、幅広い世代による公民館の利用を後押しするとともに、「地域の子どもは地域で育む」取組みに繋がる。今後は、安全対策やニーズを把握しつつ、前向きに検討していきたい。

カレッジパスについて

- Q.** 今回、佐世保市営バスと西肥バスの運行体制が一体化されたことにより、市営バスのサービスであった「カレッジパス」が廃止された。この学生定期は、若年層のバス利用促進、中心市街地の回遊性に繋がっていたと思うが、市の見解を伺う。
- A.** 県内バス事業者の交通系IC「ニモカ」の導入に併せ、料金体系や制度の見直しを含め、改めて西肥自動車でのカレッジパス導入の検討を要望している。

新たな地域核の形成について

- Q.** 本市相浦・日野地区は文教機能が集積しており、交通の結節点でもある。民間業者の力も借りつつ、産学官民が連携し、総合グランド周辺の農地の活用、新しい時代にふさわしい土地利用を求める。
- A.** 現在、都市計画マスタープランの見直しを進めており、相浦駐屯地に新編された水陸機動団や県立大学のキャンパス整備など環境変化に鑑み、持続可能なまちづくりに向け将来ビジョンを構築する。